

# 水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

[http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/08seisan/04\\_jyuhou/0403seiku/seiku.html](http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/08seisan/04_jyuhou/0403seiku/seiku.html)

第 3 報  
千葉県農林水産部  
平成 22 年 6 月 24 日

## ●「コシヒカリ」の幼穂を確認しよう

## ●出穂前 3 週間～出穂後 2 週間は湛水管理

### 【 生育概況 】

気温は、5月下旬から6月上旬を除いて平年よりも高温です。このため4月第5半旬までの低温等による生育の停滞は回復し、おおむね平年並みの早さで生育が進んでいます。

4月20日植えの「ふさおとめ」は、6月18日、「ふさこがね」は6月19日に幼穂形成期となり、冷害危険期を迎えつつあるので、低温に注意しましょう。(表2参照)

「コシヒカリ」は、4月20日植えでは平年よりもやや進みが遅いものの、草丈や茎数も平年並に確保できていますので、幼穂形成期を確認して適期の穂肥に備えましょう。

農林総合研究センター発表の6月11日付け病害虫発生予報では「いもち病」の予想発生量は平年並です。梅雨期は感染しやすい条件が続きがちですから、ほ場をよく見回って早期発見・適期防除に努めましょう。

表 1 品種別の生育状況 (6月24日現在)

品種	植付時期	平年遅速	平年比		
			草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日頃	並	並	並	やや淡
ふさこがね	4月20日頃	並	並	やや多	並
コシヒカリ	4月20日頃	やや遅	並	並	並
	5月1日頃	並	並	並	並

※ 平年値は過去5年間(2005～2009年)平均値。ただし「ふさこがね」は過去4年間(2006～2009年)の平均値。

表 2 「ふさおとめ」と「ふさこがね」の冷害危険期

品種	植付時期	幼穂形成期(月日)	冷害危険期予測(月日)
ふさおとめ	4月20日	6月18日頃	6月28日頃
ふさこがね	4月20日	6月19日頃	6月29日頃

※ 「ふさおとめ」は日平均気温に基づく発育段階予測結果、「ふさこがね」は幼穂長の実測値及び葉令等からの推定値による。

表 3 「コシヒカリ」の幼穂形成期と冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測(月日)				冷害危険期予測(月日)
		県北	九十九里	内湾	県南	
コシヒカリ	4月20日	6月30日	6月28日	6月29日	6月28日	7月8日頃
	5月1日	7月3日	7月2日	7月3日	7月3日	7月12日頃

※ 日平均気温に基づく発育段階予測結果

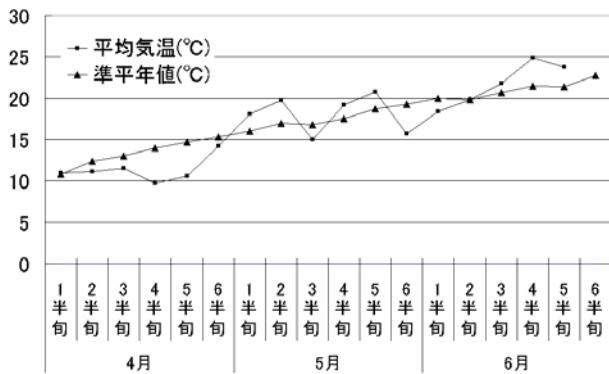


図 1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

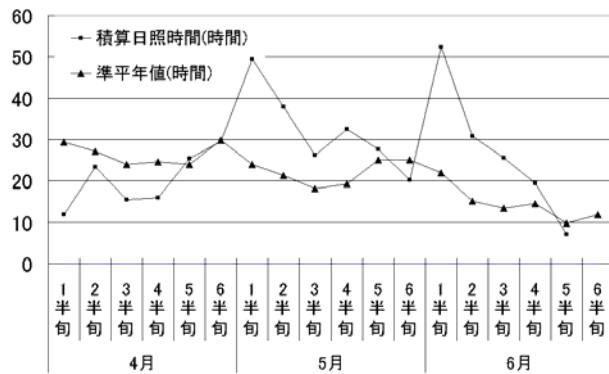


図 2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

## 【 これからの管理のポイント 】

### ■ 「コシヒカリ」の管理

#### ○ 幼穂を確認して適期穂肥に備えよう

「コシヒカリ」は「ふさおとめ」や「ふさこがね」と比べて倒伏しやすいので、穂肥の施用は慎重にしましょう。葉色、莖数、及び草丈から総合的に診断します。診断方法は表 4 を参照してください。

表 4 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色 (SPAD 値) ×莖数/m <sup>2</sup>	草丈 (cm)	予測される生育・収量	対策
16,000 以下	70cm 未満	倒伏は避けられるが、籾数が不足しやや減収となる。	穂肥の増量。又は時期を 2~3 日早める。
16,000 ~20,000	70cm 未満	穂肥施用により目標どおりの生育が期待できる。	出穂前 18 日に、標準量の穂肥を施用する。
	70~80cm	穂肥施用による籾数確保は必要だが、穂肥施用によって稈長が伸び、倒伏が心配される。	穂肥と倒伏軽減剤とを組み合わせる。
20,000 ~27,000	75cm 未満	穂肥施用による倒伏の心配は少ないが、籾数過剰となり、乳白米の発生が心配される。	穂肥の施用量を減らす(窒素施用量 1~2kg/10a)か、時期を遅らせる。
	75~82cm	穂肥施用により籾数過剰となる。穂肥を施用しなくても稈長が伸び過ぎて倒伏が心配される。	穂肥は施用せず、倒伏軽減剤のみ施用する。

表 5 幼穂形成期の生育目標

草丈 (cm)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (カラスケール値)
70 以下	430~560	3.5~4.0

表 6 主な倒伏軽減剤

薬剤名	使用時期/使用回数	10a 当たり散布量	処理方法
ロミカ粒剤	出穂 25~10 日前まで/1 回	2~3kg	湛水散布
スマレクト粒剤	出穂 20~7 日前/1 回	2~3kg	湛水散布
ビビフルフロアブル	出穂 10~2 日前/1 回	75~100ml	茎葉散布

▼ 穂肥の適期を判断するためには、幼穂を確認するのが一番です。

幼穂形成期は幼穂長 1mm（出穂 25 日前）の株が全体の 8 割に達した時点です。ここから数日でお穂 3 週間前（湛水管理開始期）になります。

穂肥の適期は幼穂長 10mm（出穂 18 日前）のときです。

ほ場の中で中庸な生育をしている連続した 5 株程度を選んで、各株の最長茎の幼穂長を測定します。1mm を超えた株の数が測定した株数の 8 割に達した日が幼穂形成期です。

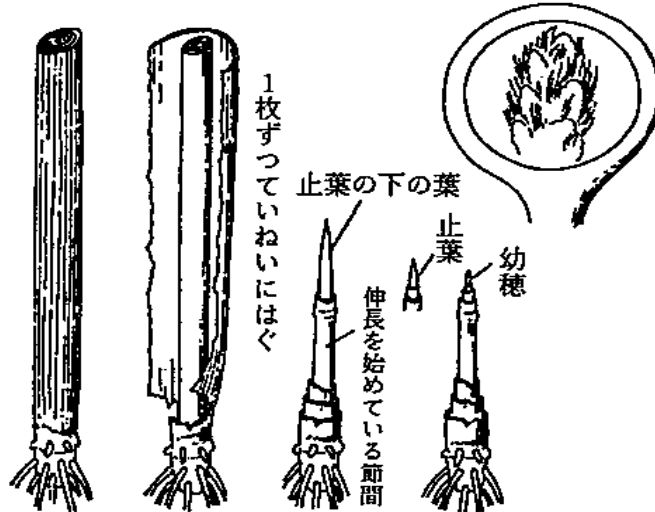


図 3 幼穂の確認方法

（出典：農文協 農業技術体系作物編 P134）

○ 幼穂形成期に入ったら湛水管理

幼穂形成期に入ったら、「安全・安心」な米作りのために湛水しましょう。

■ 「ふさおとめ」の管理

○ 湛水管理を徹底しよう

「ふさおとめ」は既に出穂まで 3 週間以内になっています。「安全・安心」な米作りのために湛水しましょう。

■ 「ふさこがね」の管理

○ 穂肥適期を再確認しよう

4 月 20 日植えの「ふさこがね」は 6 月 25 日頃から穂肥適期（出穂 18 日前、幼穂長 10mm）を迎えます。早過ぎる穂肥は籾数の過多をもたらし、1 籾当たりの栄養分が不足したり、成熟期をばらつかせたりして品質を低下させやすくなります。また遅い穂肥は食味低下の原因となります。必ず幼穂を確認して穂肥適期を確認しましょう。

施肥量は、窒素・加里を 10a 当たり分量で各 3kg です。

表 7 「ふさこがね」穂肥施用の目安（幼穂形成期）

草丈 (cm)	莖数	葉色(カラースケール値)
60~65 以下	450~550 本/m <sup>2</sup> (25~30 本/株)	5.0

※ 莖数の ( ) 内は 30cm×18cm で植え付けされた時の 1 株平均莖数

## ○ 幼穂形成期に入ったら湛水管理

幼穂形成期に入ったら、「安全・安心」な米作りのために湛水しましょう。

### ■ 水管理の原則

## ○ 中干しから出穂後までの水管理

自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために、基本的な中干しの他に③を行うことが有効です。「安全・安心」な米作りのために対策を励行しましょう。

※米のカドミウム残留基準が 1.0ppm から 0.4ppm に引下げられます。

- ① 中干しは強過ぎないように、土が湿って足跡が残る程度
- ② 中干し後から出穂 3 週間前までは間断かんがい
- ③ 出穂前 3 週間～出穂後 2 週間は湛水管理（幼穂を確認したら湛水開始）
- ④ 出穂 2 週間後から出穂 25 日後までは間断かんがい

## ○ 低温時には湛水

幼穂形成期以降に平均気温 20℃以下の低温持続が予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水（保温）しましょう。

表 8 低温時湛水深の目安

幼穂形成期（出穂 25 日前）から冷害危険期（出穂 15～10 日前）	湛水深 10cm 程度
冷害危険期（出穂 15～10 日前）	湛水深 20cm 程度

### ■ いもち病の防除

この時季はいもち病に注意が必要です。平均気温 20～25℃で曇雨天が続いて茎や葉の湿っている時間が長いときが感染しやすい条件です。葉いもち予防の粒剤は、発生する前に散布する必要があります。葉に病斑が多数見られるほ場では、予防効果と治療効果を兼ね備えた薬剤を直ちに散布しましょう。治療効果のある薬剤は、発生確認後の早い段階の防除で高い効果が期待できます。ほ場をよく見回って、早期発見に努めましょう。

薬剤は6ページの表 9を参照してください。

### ■ 稲こうじ病の防除

幼穂分化期～穂ばらみ期に降雨が多くて気温が低い年に発生が多くなります。

出穂前が防除時期です。前年度に多発したほ場では6ページの表 10 を参照して薬剤防除しましょう。

### ■ 出穂 2 週間前までの雑草防除

出穂直前の畦畔雑草はカメムシ類の生息場所となるので、出穂 2 週間前頃までに畦畔雑草を刈り取りましょう。



## ■ 農薬の飛散防止

農薬の散布に当たっては、周辺への飛散を防止するため次に示す事項に注意しましょう。

- 風の弱いときに風向きに注意して散布する
- 散布の方向や位置に注意する
- ドリフト低減ノズルなど適切なノズルを用い、適正な圧力で散布する
- 適正な散布量で散布する
- タンクやホースの洗浄を徹底する
- 近接する住宅や作物の生産者等と連携する
- 緩衝地帯を設ける
- 遮蔽物を設ける
- 飛散しにくい農薬や剤型を選ぶ



図 4 ふさこがね（4月20日植え）  
6月24日（千葉市緑区刈田子）の様子

表 9 いもち病の主な防除薬剤

作用性	薬剤名	使用時期/使用回数	使用時期/使用回数の注記	10a 当たり散布量
予防	オリゼメート粒剤	右記/2回まで	葉いもちには初発 10 日前から初発時に、穂いもちには出穂 3~4 週間前（ただし、収穫 14 日前まで）に散布	3~4kg
	キタジン P 粒剤	右記/2回まで	葉いもちには初発 7 日前から初発時に、穂いもちには出穂 20~7 日前に散布	3~5kg
	コラトップ粒剤 5	右記/2回まで	葉いもちには初発 10 日前から初発時に、穂いもちには出穂 30~5 日前に散布	3~4kg
	// ジャンボ	右記/2回まで	葉いもちには初発 20 日前から初発時に、穂いもちには出穂 30~5 日前に散布	10~13 個
	ブイゲット粒剤	収穫 45 日前まで/2回まで	葉いもちには初発 20~7 日前に湛水散布	3kg
	フジワン粒剤	収穫 30 日前まで/1回まで	葉いもちには初発 10~7 日前に、穂いもちには出穂 30~10 日前に湛水散布	3~5kg
	ラブサイド粉剤 DL	収穫 7 日前まで/右記	6 回以内（ただし、穂ばらみ期以降は 4 回以内）	3~4kg
予防・治療	イモチエース粒剤	収穫 35 日前まで/1回まで		3kg
	カスラブサイド粉剤 DL	穂揃期まで/2回まで		3~4kg
	ヒノザン 粉剤 25DL	収穫 21 日前まで/3回まで		3~4kg
	// 乳剤 30 1,000 倍液	収穫 21 日前まで/3回まで		注
	ブラシン 粉剤 DL	収穫 21 日前まで/2回まで		3~4kg
	// フロアブル 1,000 倍液	収穫 21 日前まで/2回まで		注
治療	カスミン 粉剤 DL	穂揃期まで/2回まで		3~4kg
	// 液剤 1,000 倍液	穂揃期まで/2回まで		注

※ 注：乳剤、フロアブル剤、液剤の 10a 当たりの散布量の目安は次のとおり

本田初~中期：100~120 リットル、穂ばらみ期・出穂期：120~150 リットル

表 10 稲こうじ病の主な防除薬剤

薬剤名	使用時期/使用回数	10a 当たり散布量	
モンガリット粒剤	収穫 45 日前まで/2回まで	3~4kg	出穂 3~2 週間前に、必ず湛水した水田に処理し、その後 7 日間は止水する。
ブラシンフロアブル 1,000 倍液	収穫 21 日前まで/2回まで	120~150 リットル	
ブラシン粉剤 DL	収穫 21 日前まで/2回まで	4kg	
ラテラ粉剤 DL	収穫 14 日前まで/3回まで	3~4kg	
撒粉ボルドー粉剤 DL	出穂 10 日前まで/ー	3~4kg	
Z ボルドー粉剤 DL	出穂 10 日前まで/ー	3~4kg	